

前置詞の考え方

「英語はとにかく前置詞がわからなくて」という方が多いのですが、それは「前置詞」だけを考えるから難しいのです。「前置詞」は必ず「副詞」とともに考えるべきものなのです。

でないと前置詞の本当の意味がわからなくなってしまうばかりか、副詞もわからなくなってしまう。

例えば、inという前置詞を辞書で調べてみてください。

inには「前置詞」の意味と同時に「副詞」の意味の両方の意味が載っていますね？

ですから前置詞と副詞との違いを知っておく必要があるのです。

みなさんは、英語の動詞には「前置詞」がつく動詞とつかない動詞があることに気づいておられると思いますが、どうしてその区別があるのでしょうか？

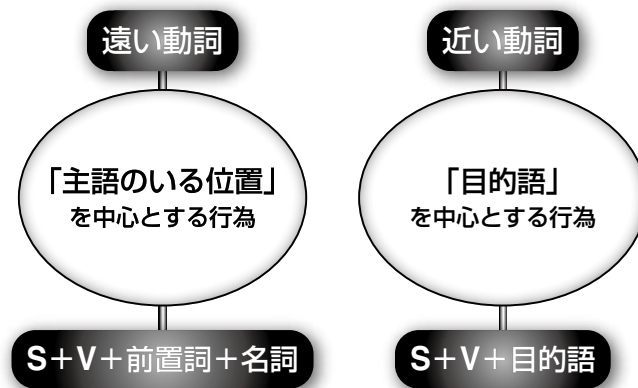
そのマインドについて、ここで述べておきます。

前置詞がつかない動詞の代表は、

『S(～は) + V(～する) + O(～を)』の形で用いる「他動詞」です。

そのマインド(背景にある本当の意味)は、

- 主語がある目的とする行為・動作をするときに
- 「主語」と「目的語」との間に「空間」「距離」がなく、
- その両者が同じ位置か、
- 「目と鼻の先」くらいの近い位置にあること



です。これを別の言い方で「近い動詞」と私は呼んでいます。この形が「S+V+O」のマインドです。

そんなに難しく考えないでください。例えば、「食べたり、飲んだり、着たりする」という動作は「主語」と「食べたり、飲んだり、着たりするもの」との間に距離がありませんね？

このように、ある行為をするときに「主語」と「目的語」との間に距離がない動作・行為を表す動詞を「近い動詞」といいます。

具体例でいえば、「私はコーヒーを飲んだ」は、I drank coffee. でのよいのですが、このように「S+V+O」で用いる「飲む」は、「主語」と「目的語」の間、つまり「私」と「飲もうとするコーヒー」との距離がほぼ同じ位置か目と鼻の先にあることを意味するのです。これが「近い動詞」つまり「他動詞」のマインドです。

また、「見る」行為に see を用いた場合は、see という行為をする